

ご 挨 拶

第23回 生殖バイオロジー東京シンポジウム大会長 IVF大阪クリニックの福田愛作です。私は生殖バイオロジー東京シンポジウムの創設者である鈴木秋悦先生とは、日本臨床エンブリオロジスト学会の顧問として長いお付き合いがありました。2023年の胚培養士認定資格の歴史的統一の年に大会長の指名を受け、第23回大会の会長に指名されましたのは偶然ではなく、胚培養士育成に尽力された鈴木秋悦先生の天の声があったものと確信しております。

ステップトー博士とエドワーズ博士による世界初の体外受精は1978年です。日本の体外受精は、1983年に初めての成功ですから2023年で満40年が経過し、2024年から41年目に入っております。人生においても40歳は不惑と呼ばれ「これまでの人生を見つめ直し、次に向かって方向を定め進むべし」と言われます。日本の体外受精も既に40年以上が経過しており、その時期に来ているのではないのでしょうか。

そこで第23回のテーマを「生殖補助医療の原点に戻って」と題し、不妊症の原因疾患である子宮内膜症についての最新情報を、がん生殖の現状、また着床前検査のみならず不妊症の遺伝的要因について、また胚培養士の国家資格に関する話題、更には生殖補助医療により生まれた子供たちの未来など多様な演題を準備しております。

生殖医療に携わる医師のみならず、研究者、胚培養士、生殖医療看護師や生殖補助医療に関わるすべての方々のご参加をお待ちしております。

2024年7月

第23回 生殖バイオロジー東京シンポジウム

大会長 福田 愛 作

■ ご 案 内 ■

事前参加受付はオンラインによる登録とさせていただきます。

情報交換会：9月7日（土）19：00～

ホテルヒルトン大阪4F 金山華の間（事前登録のみ）

事前参加登録期間：6月3日（月）～8月23日（金）

ポスター発表演題募集について：応募締め切り7月31日（水）

詳細は、ホームページにてご確認ください。

<http://rbiotk.org/>

